SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	山本 裕紀	学校名	和歌山県 かつらぎ町立大谷小学校
実施学年	5年	教　科	社会
単元名	米作りのさかんな地域		

≪学びを深めたいポイント≫

① 「自己調整学習」の定着
　・・・自身で疑問をもち、自身で調べ、自身でまとめていく。調べたことは必ずプレゼンを行う。
② 「主体的・対話的・協働的な授業づくり」
　・・・教員はファシリテーターであることを意識し、話題の提供や、言い換え、重要語句についての説明など以外はすべて、児童の疑問から広げ、深めていく学習を行う。また、児童が共有したい、確認したい時に自由に友達と話せる機会を設ける。
③ 「社会科における資質・能力の向上」
　・・・考えの根拠となる資料を自身で探し出し、複数の資料と関連付けて説明を行うなど、教科書の暗記で済ませるのではなく、教科として求められる資質能力の向上をねらいとする。

≪SKYMENU 活用のポイント≫

今回の取り組みでは、『発表ノート』の活用に重点を置いている。ノートや鉛筆、消しゴムのように、学習用具の1つとしてタブレットを日常的に使用できるようになること。そして、どの授業でも、『紙ノート』や『発表ノート』をそれぞれの良さを理解した上で、自分で選んで使用することが最終目標となっています。

また、教科における資質・能力の向上を目指し、自身で調べたことをアウトプットすることに重きを置き授業づくりを行った。その結果、言葉で説明する。図式化する。イラストを示す。資料（グラフ、表、写真、文章）を提示するなど、様々な表現手段を実践することも『発表ノート』の有効的な活用方法と考えました。また、デジタルデータとして学習の軌跡を残すことで、宿題での活用もできると考えています。

本時では、『発表ノート』に<表現の手段>として3つの役割を持たせました。

① 自分で探し出した資料（考えの根拠となる資料の写真や証拠など）をスクリーンショットやカメラで撮影し、『発表ノート』内に貼り付け、そこに解説を書き入れて、友達に提示する。資料の提示方法としての役割。

② イラストや図を『発表ノート』に手書きし、筋道を立てて、一つ一つ順を追ってプレゼンテーション形式で説明する。説得力を高めるプレゼンアプリケーションとしての役割。

③ 『発表ノート』と『紙ノート』のハイブリッド型。イラストや図、解説文を書いた『紙ノート』を写真に撮って『発表ノート』に取り込み、友達に提示して発表する。アナログとデジタルの両方の良さを両立させる役割。

≪実践内容≫

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	① 前時で学習した「食料自給率」の語句について確認し、実際の食事に置き換えた資料と不足分を輸入でまかなっている（イラスト）を提示。 ② 児童の反応（「すくない！」「これくらいしかないの？」「お米は多い！」「お肉は欠片みたい。」「お腹すいちゃう？」）を出しながら、本時のめあてへの意欲をもたせる。 ③ 本時のめあてを提示「不足した食料を輸入に頼ることはいいこと？わるいこと？」	・調べ学習を行う前に、事前知識として押さえておきたい資料を発表ノートに張り付け、配布を行い。必要に応じて児童がコピーできるようにする。	・発表ノートに張り付けた、資料をもとに児童に気付いたことや感じたことを呟かせる。その呟きを拾い、この後の学習で「調べたい！」という思い
展開	④ 自分なりに考え、交流する。 良い面　悪い面 ⑤ 教科書やインターネットで調べ検証する。そして、児童１人１人がそれぞれの方法で、発見したことを表現していく。 良い面 ・食生活が豊かになった。 ・安く、色々なものをいつでも手に入れられる。 悪い面 ・輸入食品の安全性 （BSE や農薬など） ・輸入食品の安定性 （気候、病気など） ・輸出国の環境破壊 ⑥ 補足説明として、国産の食料だけで賄おうとした場合の資料を提示。	・児童は『発表ノート』に、自身の予想を書き、その後調べて分かった内容について、資料を貼り付けたり、図やイラストを描きこんだり、することで説得力をもって発表することができた。 ？ 輸入して大丈夫？ 予想 良い面 ・自分の国だけではまかなえないところもまかなうことができる。 ・たくさん食べれる 悪い面 ・国産の食品は、味が良く、質がよい ・国産のほうが安心 ・お金がかかる ・外国にも負担が・・・ ・不安定 ・輸入ができなくなるかも ・外国産は、安全性が低い 食料自給率＝その国の中だけの食品で、国内での食料生産で国民が食べられる量が賄かめる数字 輸入→外国から　輸出→外国へ 日本の食料自給率は37％ 輸入に頼り切っていて、大丈夫？ 良い面 毎日おなかいっぱい食べられる。 安い 63％は輸入に頼っている 悪い面 輸入できなくなったら、食料が足りなくなる。 外国にも負担がかかる。 不安定 日本の費用UP！	・一人で黙々と行う子。ペアで取り組む子。教員と対話しながら行う子。など、自分に最適な学習スタイルで、検証を行っていく。 ？ 輸入して大丈夫？ ・外国の食料は日本と比べると安全性は低い ・家畜の病気や気候により量が減ることがあり、外国との関係もかかわる（過去にBSEというウイルス） ・輸出国の自然を破壊する可能性 輸入に頼って大丈夫？ ①外国の食料は日本と比べると安全性は低い。 ②家畜の病気や気候により量が減ることがあり外国との関係もかかわる。 ③輸出国の自然を破壊する可能性。

まとめ	・現段階において、自身の結論をまとめる。 （「不足した食料を輸入に頼ることはいいこと?わるいこと?」）		○これまで学習したことが発表ノートにまとまっているので、変容を明記して再編集しまとめる。

≪実践を振り返って≫

社会科の授業では、以下の3点について、『発表ノート』が大変有効であることがわかった。

① 資料を端末上で配付することができる。
→以前なら白黒であったり、印刷やカットする大変さ、ノートに張り付ける手間があったが、
データで配付できることで、カラーの資料を簡単に配付し、活用できることが効果的であった。
教科目標にもあるように資料の中から情報を探し、整理し、まとめたり、関連付けたりする力を育むことに最適なツールだった。

② 調べたことを、わかりやすく伝えることができる。
→以前なら、話す力が身についている子が中心となり、話し合いが進むことがどうしてもあったが、『発表ノート』を活用することで、表現の幅が大きく広がりを見せた。資料を使って発表した方が話しやすい子。イラストでまとめることが得意な子。グラフなどの数値データを基にした方が伝えやすい子。など、1人1人に最適な方法で伝えることが可能となった。

③ アナログ、デジタルの資料をわかりやすく比較、集約することができる。
→以前までは、教科書や資料集、図書資料、インターネットなど、散らばった情報を集約することが困難だったが、『発表ノート』を活用することで、タブレット内に集められて、しかも、わかりやすく配置・構成しながら整理することができる。話し合いの中では、児童がこれらの資料を拡大して見せたり、グループワークをした他の児童のノートから関係づけたりして説明することができ、まさに令和ならではの学習を見ることができた。

タブレットを活用した授業づくりは、令和の教育のスタンダードと言われるように、タブレットを活用することにより、今までは実現不可能だった資質能力を引き延ばせることを実感できた。特に、今まではスポットが当たらなかった児童が、タブレットを活用することで活躍している姿を見て、個別最適の重要性を理解できる実践となった。
今後も、より効果的に活用できるように、研究を進めていきたい。